

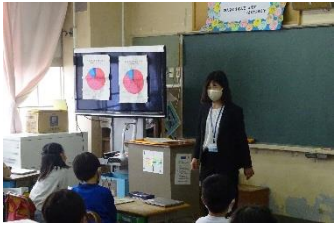


3年 授業実践



1 主題名・教材名 友達によりそって B 友情、信頼

「貝がら」(出典:「小学どくとく3年 -はばたこう明日へ-教育出版)」

2 本時のねらい 主人公ぼくの中山くんに対する気持ちを話し合う活動を通して、相手の身になって考え、寄り添い、信頼しようとする気持ちを育てる。

3 展開

段階	○学習活動と主な発問	・児童の反応	・指導上の留意点 ○評価
導入	○事前アンケート結果を提示し、友達との関わりについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・話を始められたり挨拶ができた人が多い。 ・できない人もいるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じ気持ちや違う考えをしている児童がいることに気付けるようにする。
展開	<p>○条件・状況を知る。</p>  <p>○教師の判読を聞く。</p> <p>○心に残ったところを出し合う。</p> <p>○教材の柱について話し合う。</p> <p>1 話しかけても黙りこむ中山くんを見て、ぼくはどんな気持ちだろう。</p> <p>2 図工の時間に中山くんがまた話さなくなったとき、ぼくはどんな気持ちだっただろう。</p> 	<p>○登場人物 ぼく、中山くん、女の子</p> <p>○条件・状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生になり、ぼくはてん校してきた「中山くん」ととなりのせきになった。 ・中山くんにいろいろしつもんをしても、あまりはんのうしてくれない。 ・ぼくのことをいやがっているように感じている。 <ul style="list-style-type: none"> ・初めて口を開いてくれたところ。 ・女の子が笑ったところ。 ・貝がらを持ってきたところ。 ・今度こそ友達になれると思ったところ。 ・どうしてしゃべらないんだろう。 ・仲良くなりたいと思っているのに、どうして話してくれないのかな。 ・ぼくのこと嫌いなのかな。 ・初めて話してくれたときは、嬉しかったし、嫌われていなかったんだと思った。 ・言葉遣いを変えて話してくれなかったんだ。 ・せっかく話してくれたのに、女の子たちが笑ったから、嫌だな。 ・どうして笑ったんだ。 <div data-bbox="560 1877 1002 2056" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>図工の時間に中山君がまた、話さなくなったとき、ぼくはどんな気持ちだっただろう。</p> </div>	 <ul style="list-style-type: none"> ・中山くんの行動に、モヤモヤしているぼくの様子に気付けるようにする。 ・中山くんが話し始めたときのぼくの嬉しい気持ちにも気付けるようにする。 ・場面絵を用いてそれぞれの表情から気持ちを考えられるようにする。 

	<p>③「今度こそ、なかよくなれる」とぼくが思えたのはどうしてだろう。</p> <p>※貝がらを見たときの気持ちはどうだろう。</p> <p>※どんな気持ちで、中山くんは貝がらをぼく持って行ったのだろう。</p> <p>○友達と仲良くなるために、どうしたらいいだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貝がらを見たとき、きれいだなと思った。あの絵にあった海の貝をどうしてこんなにくれたのかと思った。 ・友情の印として、送ったのではないか。 →※T…どうして？ ・中山君は、僕と友達になろうと思ったのではないか。 ・ずっと話を聞いたりしてくれたから。 ・嫌われていないと思ったから。 ・「笑わなくてありがとう。」と思ったから。 ・お見舞いまで来てくれたから、友達になれると思った。 ・いっぱい話す。 ・挨拶をし、声を掛ける。 ・友達といろんなことを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助発問をすることで、ぼくが「貝がら」を通して気付いた中山くんの思いを受け取り、仲良くなれると思ったことについて考えられるようにする。 ・自分の宝物である貝がらを持って、お見舞いに来た中山くんの気持ちも触れながら、ねらいに迫れるようにする。  <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用して、みんなの意見を見合いながら、価値に対する思いを膨らませられるようにする。 ・行動に焦点が当たっている場合には、その行動の背景について考えられるように聞き返すことで、考えられるようにする。 <p>○主人公の中山くんに対する気持ちを話し合うことで、相手の身になって考え、寄り添い、信頼しようとする気持ちをもてたか。(タブレット、発表)</p>
<p>終末</p>	<p>○「友達はいいもんだ」を聴く。</p>	 <p>その子といろいろとしゃべるといいかも。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌を聴くことで、よりねらいに迫れるようにする。

4 授業の成果(○)と課題(●)

- 補助発問をすることで、主人公や登場人物の気持ちに寄り添い、ねらいに迫れた。
- 3の柱の板書を中央にしたことで、これまでの出来事とのつながりが主人公の前向きで温かい気持ちと重なり、子どもたちの心の中にも沁みていくように感じた。
- ぼくの気持ちだけでなく、中山君の思いも考えられるようにすることで二人のつながりがわかりやすくなり、自分たちの生活に置き換えたときに意見が出しやすくなった。
- みんなの前での発表とタブレットを使った発表の場面と使い分けがあったことが、素晴らしかった。
- タブレット使用に時間がかかってしまい、授業内容的に盛りだくさんだったと思う。

5 指導講評(文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 浅見 哲也先生)

- ・中心発問では、子どもの発言を生かして補助発問などに生かしていた。子どもの発言をよく聞いて発問を工夫すると考えが深まる。
- ・主人公だけでなく、相手の気持ちも確認しながら進めていた。
- ・タブレットをたくさん活用し、短い言葉で綴ることで多様な意見をクラスで共有して一目で見ることができる。発表するときは文章にしてみるといい。